

事業所名	あおぞらキッズ		支援プログラム（参考様式）	作成日	2025年	3月	4日
法人（事業所）理念	子どもたちの最善の利益を大切に。 一人ひとりの個性を尊重する。 子どもたちの自立を支援する。 地域との交流を促進する。 誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。						
支援方針	自立支援と日常生活の充実のための活動 創作活動 地域交流の機会の提供 余暇の提供 季節を大切にした療育支援 文化活動への取り組み 感覚統合療法を踏まえた療育						
営業時間	平日	10時	30分から	18時	00分まで	送迎実施の有無	あり なし
	学校休校日	9時	00分から	18時	00分まで		あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	(a)健康状態の維持・改善：到着時の検温や視診、また活動中も常に観察を行い健康状態や心身の異変の把握に努める。 (b)生活のリズムや生活習慣の形成：必要に合わせ定時での排泄誘導、口腔機能向上のための飲水、おやつを利用した摂食への援助等の実施。 (c)基本的な生活スキルの獲得：ADLや身辺整理などの指導を実際の場面で実施。特性に配慮した視覚支援や環境の構造化を実施する。					
	運動・感覚	(a)姿勢と運動・動作の向上：感覚統合遊び（リトミック、トランポリン等）を通して周囲の環境に合わせた姿勢、運動ができるよう支援を実施。また、そのための基礎となる柔軟な体づくりのための身体調和支援を実施する。 (b)姿勢と運動・動作の補助手段の活用：より良い姿勢での活動が行えるよう、各々に合わせた椅子や机のセッティングをする。 (c)保有する感覚の総合的な活用：5感2覚が統合されるよう運動遊びや個別での課題（認知、言語、社会性等）を提供する。					
	認知・行動	(a)認知の発達と行動の習得：マッチング課題、構成課題、触覚遊び等様々な課題を通して、認知機能の発達を促す。 (b)空間・時間、数などの概念形成の習得：発達段階に応じた数や時計、時間の課題を提示。具体物を使用する段階から徐々に抽象的な思考へ進めるよう支援する。 (c)対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得：スケジュールの視覚化、環境の構造化を取り入れ、誰にでもわかりやすい活動空間にすることで、適切な行動を促す。タイマーの設置。					
	言語 コミュニケーション	(a)言語の形成と活用：季節の歌、絵本の読み聞かせ等を通して、様々な言葉に触れる機会を提供する。運動遊びの中で本人が感じている感覚を言語化して聞かせることにより、体験と言葉を結び付ける。また、遊びを通じて自発的な要求を引き出す。 (b)言語の受容及び表出：言語によるコミュニケーションに加え、絵カードでの支援や指差し、ジェスチャーなども含めた非言語コミュニケーションも活用する。より伝えたいことが伝わりやすくなるよう、口の体操、語彙の拡大、文章表現の向上等を目的とした支援を実施。 (c)コミュニケーションの基礎的能力の向上：コミュニケーションの基礎となる、注目・追視・動作模倣、共同注視等を促す。指導員との適切な関係の中で、必要に応じ1対1でのやり取りを行う。 (d)コミュニケーション手段の選択と活用：絵カードによる支援や指差し、ジェスチャー等を活用し、意思伝達がしやすいよう支援する。					
	人間関係 社会性	(a)他者との関わり（人間関係）の形成：安定したアタッチメント形成のために、触覚過敏への配慮や支援を行う。ふれあい遊びや手遊び歌、指導員や異年齢児を含めた場での自由遊びを通して、人の動きを模倣することを促す。 (b)自己の理解と行動の調整：必要時に行動の振り返りを行うことで、自己理解を促す。 (c)仲間づくりと集団への参加：小集団での活動を通じ、ルールを理解や適切な振る舞いを学べるよう支援する。長期休暇には外出活動等を設定し、公共の場や工場見学でのルールを知る経験を積む。					
家族支援	・子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談援助 ・子育ての困りごとへの相談援助			移行支援	・進路先や移行先への相談援助や情報提供 ・併用利用先や学校との情報共有や支援のすり合わせ		
地域支援・地域連携	・学校、併用事業所との情報連携や調整、支援方法についての情報共有、相談援助 ・相談支援事業所との連携 ・医療機関との情報連携や調整			職員の質の向上	・強度行動障害支援者養成研修への職員の派遣や虐待防止・身体拘束などの内部研修を実施。 ・法人・事業所の運営に関わる資格取得を推奨。 ・定期的な職員スキルアップのための研修の実施（月に1回ほど）。		
主な行事等	・長期休暇には買い物体験、外出体験等を実施						